特　集

県央四市学校飼育動物連絡協議会の取り組み

～学校飼育動物としての「モルモット飼育」の提案～

阿部　博子

はじめに

私たちの学校飼育動物支援活動の基盤となる「県央四市学校飼育動物連絡協議会」を紹介いたします.

当会は平成 17 年に神奈川県獣医師会相模支部　学校飼育動物委員会と県央四市（大和市・海老名市・座間市・綾瀬市）の教育委員会により，組織的な活動を通じて効果的な動物介在教育の推進のため設立されました．平成 20 年からは年１回「教師と獣医師との合同学習会」を企画し，四市の小学校の年間講習スケジュールに組み込み，飼育委員担当教諭を対象に勉強会を開催しています．四市 53 校から１~２名出席いただいています.

写真１　令和４年度　合同学学習会

教育現場への発信

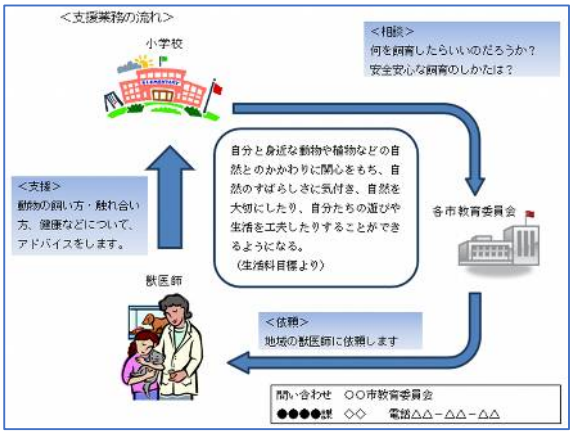
平成 21 年からはより実践的な動物飼育推進を目的として，故中川美穂子先生（当時全国学校飼育動物研究会事務局長）に講演を依頼し,「負担のない　楽しい継続飼育と教育的効果」についてお話頂きました.

私たち獣医師は，児童への教育効果についての知識は持ち合わせていなかったため中川先生による学校飼育動物の存在意義また科学的，統計学的な根拠に基づいた児童への教育的効果のお話は，獣医師として飼育指導や病気への支援以外に，今後教育現場にかかわっていく大人として，あらためてご教授いただく立場を認識したことを覚えています.

当時は主にウサギやチャボの飼育指導が主体で，毎年教育現場の飼育担当教諭が代わることが多く，また学習会後のアンケートの要望も考慮に入れ，毎年同内容の講演をしていただきました.

しかしながら，普段から業務の多忙な小学校教諭の動物飼育への負担などから，学校飼育動物は減少の一途でした.

そこで私たちはアンケートでも度々教諭からの不安として上がっていた，動物に何かあったときにどこに相談すればよいかわからないという点から，一つずつ解決するために，平成 25 年度より「学校飼育動物相談窓口」を開設し，いつでも小学校と獣医師がつながることのできる体制を整えました.



この相談窓口を活用してもらうことで普段獣医師とのかかわりがない小学校でも，教育委員会を通して各市の対応可能な獣医師につなぐことができます.

また平成 26 年度には，もっと身近で飼育できる動物として「学校飼育動物としてのモルモット飼育の提案」を発出しました.

学級でモルモットを飼育しませんか？という呼びかけのもと，引き続き合同学習会では，故中川先生よりご紹介いただいた福井県獣医師会の大門由美子先生に，福井県小学校でのモルモット飼育の実践についてご講演頂くことで，少しずつモルモットという動物を浸透させていきました．合同学

習会では会場に獣医師会所属のモルモット（ハートレイ種メス）を入れ，実際にふれあいの機会も設けました．もちろん現在各学校で飼育されているウサギやニワトリなどの飼育支援も引き続き大切にしながら，モルモットの紹介を続け，平成 30 年になり「県央四市小学校におけるモルモット飼育のモデル校募集」を開始しました．

開始時のモデル校募集の条件は主に

・対象学年は 2 学年と 3 学年の学級単位
・教室での飼育
・合同学習会での実践報告
・モルモットの無償提供（フード 2 年間補助・飼育備品含む）
・保護者への導入許可は各小学校で対応
・飼育相談，診療は随時受けつけ可

というものでした．

モルモットについて自身も勉強

モデル校募集を企画するにあたり，私自身日頃モルモットを診療する機会が少ないことから，SPF モルモットを取り扱う業者からハートレイ種のメスを購入し，飼育してみることに．大門先生の講演では，教育現場で飼育するモルモットは，出身がはっきりしており，特定の病気を待っていないと証明されている業者からの購入が望ましいとのことです．ペットショップで購入できる三毛柄のモルモットと違い，全身白毛で目が赤い．はじめは，児童はどうみるだろうと不安もありましたが，実際にはとてもきれいな目で，よく懐き，撫でられることが大好きな動物でした．ごはんの時間も正確で，給餌時間が近づくと「キュイーキュイー」と大きな声で催促です．

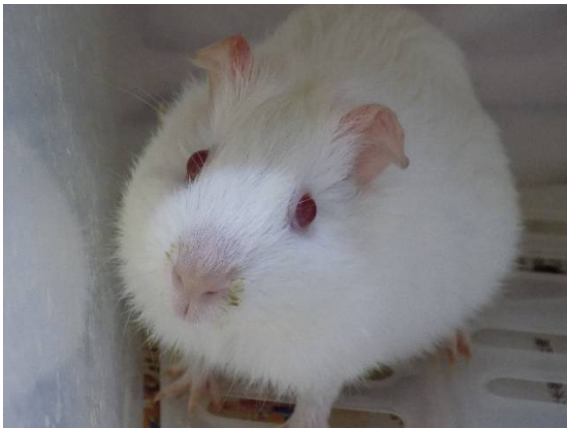


写真２　当会所属モルモット「モルモ」

実際に飼育することで，モルモットをもっと身近に感じ，児童に対して，お世話の仕方や健康観察のポイントなどを，実感をもってお話することができました．

また，獣医師会所属のモルモットがいることで，いつでもどの小学校にもふれあい体験や命の授業，希望があれば体験のための一時飼育にも活用が出来ます．

推進のむずかしさを痛感

モルモット飼育モデル校募集を張り切って開始しました．継続的に合同学習会でのモルモット飼育の実践についても講習会を重ね，さあ！募集にどれだけの小学校が手を挙げてくれるか！と期待をしていました．蓋を開けてみると，手応えがありませんでした．私たち獣医師が思うより学級飼育に対してのハードルが高いようでした．募集にあたり実施したアンケートでも，学級での飼育には教員の負担，保護者への周知同意，アレルギー対策，全教員の意識の差などが挙げられており，時間をかけいていく必要があると感じました．

そしてようやく１校からモデル校に募集がありました．

モルモット学級内飼育の開始

第１号として「モルモット飼育モデル校」として飼育を始めたのは，綾瀬市天台小学校の３学年のクラスでした．まず自身の動物病院に SLE 社より５週令のメスのモルモット（ハートレイ種）を迎え，２週間ほど健康観察と慣らしを行いました．その後天台小学校の先生方への飼育指導のために，相模獣医師会より２名の獣医師が訪問しました．以降は教員中心で飼育を始めてもらい，時期を見て３学年の２クラスの児童に対して，モルモットの授業をしました．

こんなに多人数の児童に授業をするのは初めてでした．しかし子供たちの真剣な表情には驚かされました．しっかりお話を聴いてくれていると実感しました．また当会所属のモルモットでのふれあいの時も大きな輪になり，みんな正座をして，モルモットがお膝の上に来るまでに順番を待ち，次第に抱っこを終えた児童がこれからの児童に「こうすると安心してくれるよ」などアドバイスまで．本当に感心しました．

写真３　訪問授業

そして令和元年，天台小学校の担任教諭によるモルモットの教室内飼育実践報告「ようこそ，バニラちゃん」を発表して頂きました．

担任教諭によると，このクラスは生き物係が大人気で，教室にいるカメにも優しく話しかける児童が多く，このクラスならきっとうまくいくと考えたそうです．また獣医師が積極的にかかわり支援を受けることができるので，スムーズに保護者への周知が出来たということでした．

教室に小さな命，守る命がいることで，道徳教育へのかかわり

・「教え伝える授業」から「考えさせ育む授業」へ
・「命は大切，尊い」→聞くより感じる
・生命の温かさに触れる
・理解したいと思うことで，相手を思いやる心を育てる

を大切にしたとのことでした．

子供たちが，問題を話し合い，一緒に観察し考え，解決することの大切さ．その結果として育まれた心の成長を，一大人として，またかかわる獣医師として知ることのできた，とても有意義な実践報告でした．

＜学校で動物を飼育することの難しさ＞

天台小学校教諭による実践報告の後のアンケートでは，児童への教育的効果を強く理解していただいたものの，まだまだ根強く飼育導入，継続への不安が上がりました．

・保護者への理解を求めることの不安
・アレルギー症状への対策の不安
・動物が苦手な児童への対応の不安
・日々の世話，休日の世話
・獣医師がどのくらい係わってくれるかへの不安　などなど・・・

これだけしっかりした実践報告を実施してもなお，踏み切れない実情もあるのだろうと，今後も粘り強く活動をしていくしかないと実感しました．

＜更なる推進のために＞

ここ数年のモデル校募集において，県央四市学校飼育動物連絡協議会でともに活動している四市教育委員会と話し合い，モデル校募集の条件を変更することにしました．学校飼育動物自体が減少する中，「どんな形でも小学校に動物を入れる」を目標に，学級内飼育プラス飼育委員会も可能としました．

この募集要項の緩和により，ようやく複数の小学校から反応が上がり始めました．

この後，２年間は新型コロナウイルス感染症蔓延のために，教師と獣医師との合同学習会は中止を余儀なくされました．この間も，教育委員会を通じてモルモットの飼育募集の案内は発信を続け，令和３年には座間市座間小学校の飼育委員会にモルモットを導入しました．令和４年の合同学習会では，座間小学校飼育委員会担当教諭による実践報告「モルモットのゆきちゃんとなかよし」を発表して頂きました．

今年度は飼育委員会への導入以外に，支援学級でのモルモット飼育も始まりました．少しずつモルモット飼育が広まってきています．今後の合同学習会での実践報告が楽しみです．

写真４　令和４年度実践報告

学校飼育動物の存在意義と獣医師の役割

県央四市学校飼育動物連絡協議会を発足して 17 年余り，私たち獣医師と小学校教諭は共に，（故）中川美穂子先生や福井県獣医師会の大門由美子先生から教えを受け，学校に動物がいることの意義を勉強してきました．

家庭以外で，多くの時間を過ごす学校生活の中に，大切に守り育む動物が日常的にいること，動物を介して人とのかかわりを学び，心の成長につなげること．そして，いつか訪れる「死」を，仲間とその感情を共有することの大切さ．そのための動物介在教育のために，私たち獣医師は，教育現場の先生方がなるべく不安がないようにまた積極的に学校飼育動物が活用されるように，サポートを続けていきたいと考えています．

（県央四市学校飼育動物連絡協議会／神奈川県獣医師会相模支部／相模獣医師会学校飼育動物委員長）